

2025年度 就職先アンケート調査結果概要

(調査対象：就職後2年目を迎えた4期生を雇用する病院)

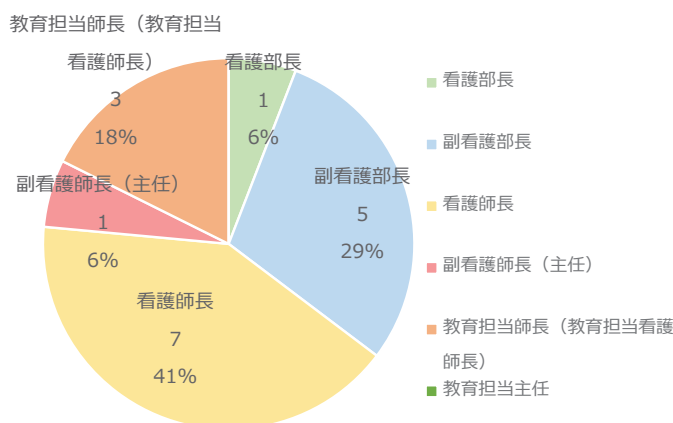
実施期間：2025年7～8月

1. 回答者概要

調査対象：2023年度卒業した4期生 2名以上が内定した17病院

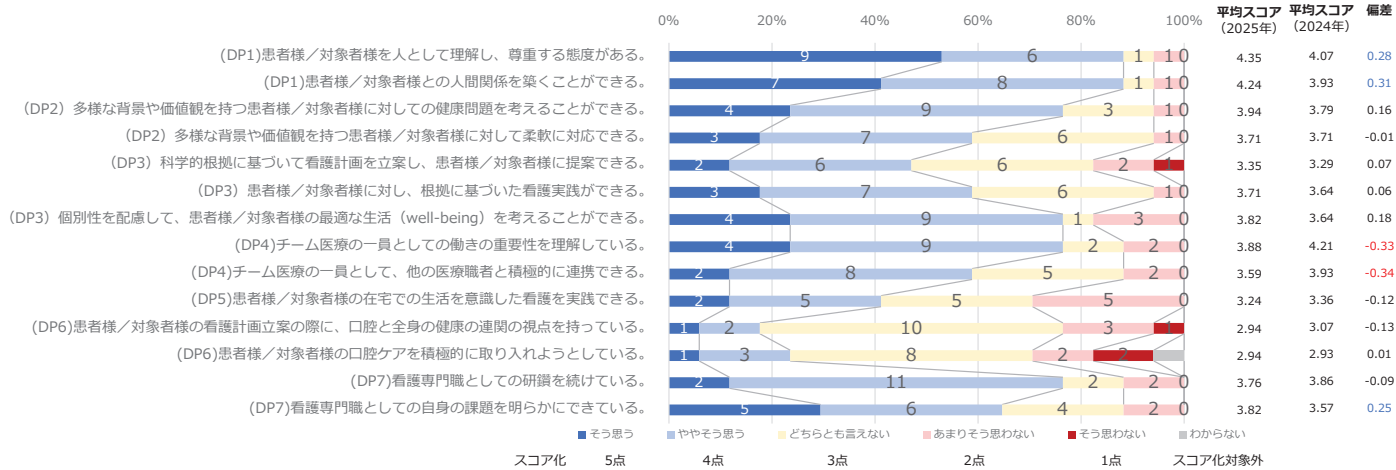
回答数：14病院 / 17病院 (回答率：82%、記名13病院・無記名1病院)

回答者の職位



2.アンケート回答内容

Q1.以下に示す能力が身に付いていたと思いますか。（1/2）



【高評価であった項目】

- ・DP1「患者を人として理解し、尊重する態度」（平均スコア：4.35）、DP1「患者との人間関係構築力」（平均スコア：4.24）
患者様を尊重する姿勢に関しても実際の人間関係構築についても9割近くが肯定的回答があり、看護の基本姿勢について高い評価を得られた。
- ・DP2「多様な背景や価値観を持つ患者に対する健康問題の理解」（平均スコア：3.94）
多様性への理解も評価されており、患者の個性を尊重した看護の姿勢を評価されたと考えられる。

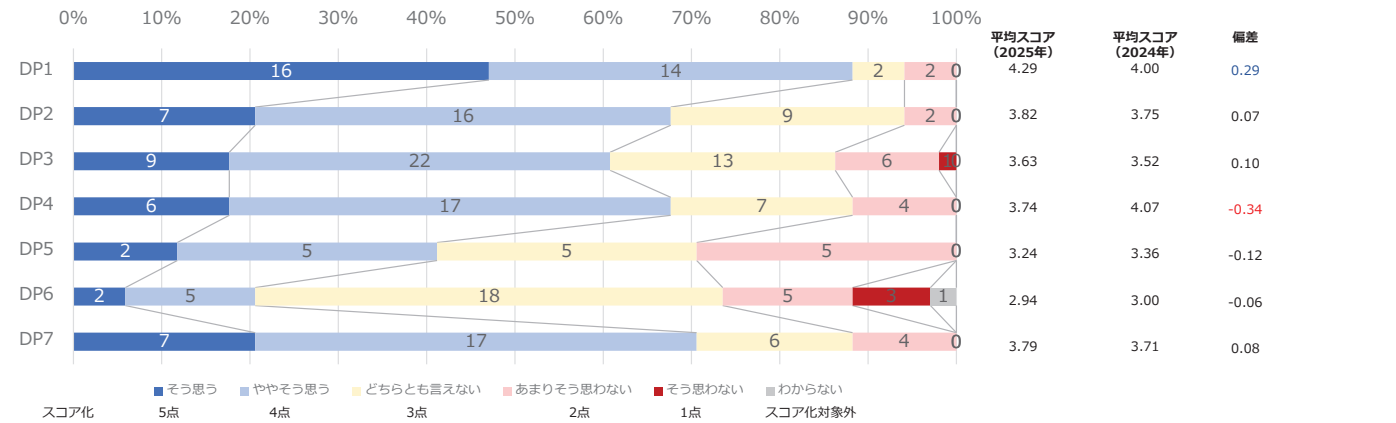
【低評価であった項目】

- ・DP6「口腔ケアの視点」、DP6「口腔ケアの積極的な実践」（平均スコア：2.94）
本項目は全体の中で最も低い評価となっており、例年低い傾向にある。入職1年程度の新人看護師の場合は特殊なケアを行う前に、まずは基本的な実践力を高めることが優先される傾向があり、口腔ケアなどの専門的なケアを試す機会は限られていると考えられる。
- ・DP5「在宅生活を意識した看護」（平均スコア：3.24）
DP6と同様に例年低い傾向にあり、新人看護師にとって退院後の生活までを見据えた配慮をすることが難しいと考えられ、経験不足や実践的なスキルの習得中であると考えられる。

2.アンケート回答内容

Q1.以下に示す能力が身に付いていたと思いますか。（2/2）

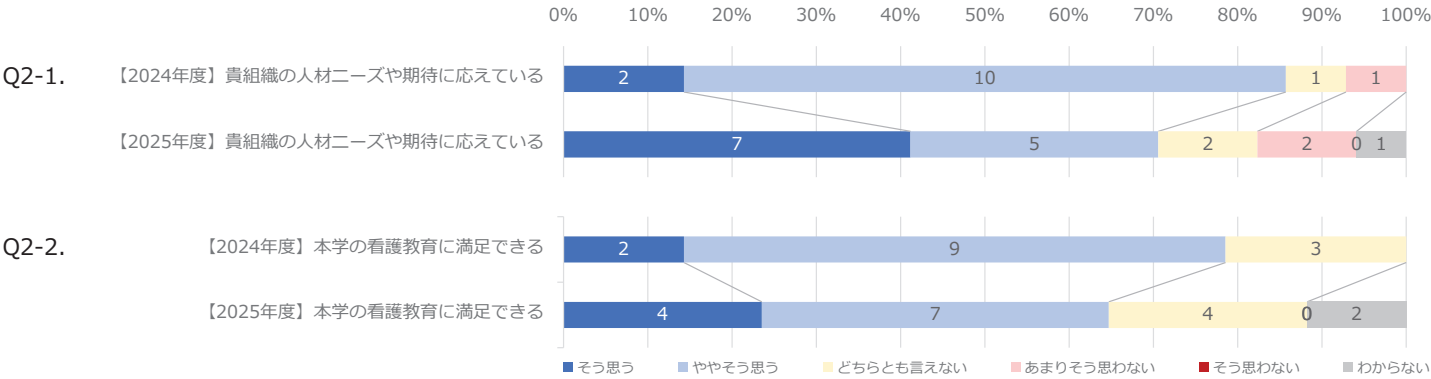
(DP合算値)



- ・DP1「患者様／対象者様を人として理解し、尊重する態度」および「人間関係を築く力」においては、平均スコアが4.29と非常に高く、昨年度から0.29ポイントの上昇が見られた。
- ・DP2「多様な背景や価値観への理解と対応」、DP3「科学的根拠に基づく看護」、DP7「看護専門職としての研鑽」については、昨年度よりわずかに上昇しており、肯定的回答も6～7割と比較的安定した高い評価であった。
- ・DP4「チーム医療の理解と連携」は、平均スコア3.74と比較的高い評価を得ており、約7割が肯定的な意見を示している。しかし、昨年度と比較して0.34ポイントの低下が見られたことから、チーム医療に対する意識や他職種との連携力の維持・向上には、今後も継続的な教育的支援と臨床での経験の積み重ねが必要であると考えられる。
- ・DP5「在宅支援への意識」は0.12ポイントの低下、DP6「口腔ケア」は昨年度とほぼ同水準（-0.06）であり、依然として低評価が続いている。これらは、実践的なスキルの習得中であり、実践機会の少なさが影響していると考えられる。今後は卒後の実践を意識した口腔ケアの学びの場を提供が必要であると考えられる。

2.アンケート回答内容

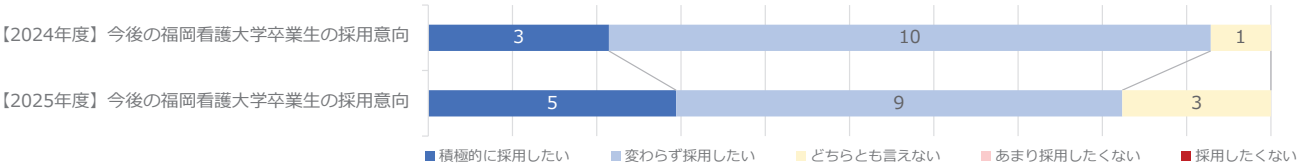
Q2.卒業生の能力や意識についてどのように思われますか。



- ・「Q2-1.貴組織の人材ニーズや期待にしているか」に関する設問では、「そう思う」が7件と、前年の2件から大きく増加しており、強い肯定的意見が増加しているが、一方で、「あまりそう思わない」「わからない」といった否定的または判断保留の回答も増加しており、評価が分散傾向にあることがうかがえる。
- ・「Q2-2.本学の看護教育に満足できる」もQ2-1ほどは顕著ではなかったが、同様な傾向にあった。
- ・就職先ごとの期待値の違いや、卒業生の適応状況にばらつきがあると考えられ、教育機関としては、一定の成果が認められる一方で、一部の就職先のニーズに十分に満たされているとは言い切れない状況である。今後は、このような就職先アンケートや実習先などの現場の声を取り入れた実践的な教育内容の充実と、臨床現場との連携強化を通じて、就職先の期待に応える人材育成をさらに推進していく必要がある。

2.アンケート回答内容

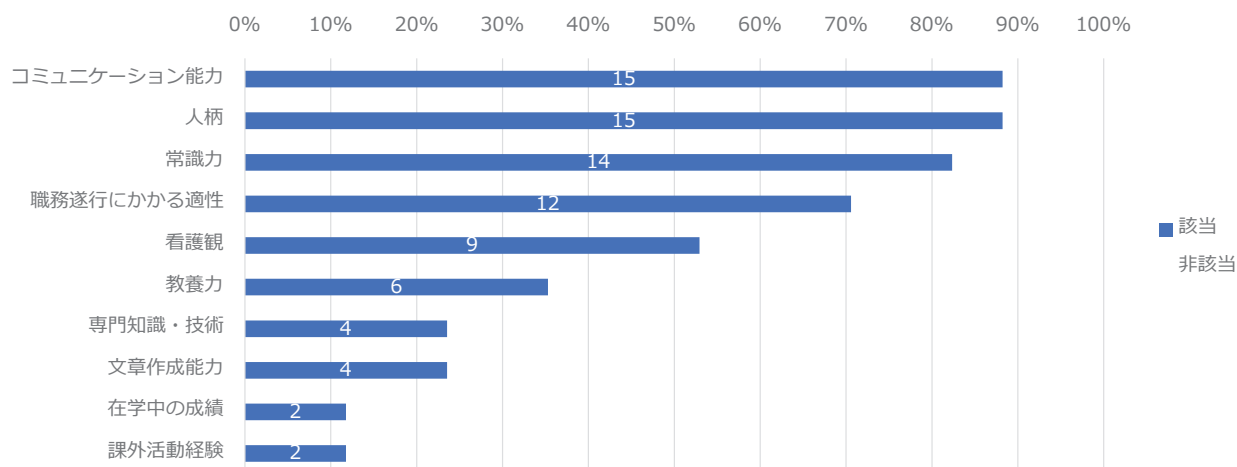
Q3.今後の卒業生の採用意向についてお尋ねします。



- ・「福岡看護大学卒業生の採用意向」に関する設問では、「積極的に採用したい」が5件と、前年の3件から増加しており、本学卒業生に対する高い期待が一部の施設で強まっていることが示された。また、「変わらず採用したい」も9件と安定した評価を得ており、全体としては肯定的な傾向が維持されている。
- ・一方で、「どちらとも言えない」が3件と、前年の1件から増加しており、卒業生の能力や適応力に対する評価が就職先によって分かれ始めている可能性がある。このような傾向が続くと、就職先の確保が難しくなったり、就職先および学生双方の満足度が低下する恐れがあるため、引き続き注視が必要である。
- ・就職活動の指導においては、病院側が求める能力や人材像を的確に見極めたうえで、学生一人ひとりの特性と照らし合わせながら、適切な指導を行うことが重要であると考えられる。今後は、過去の卒業生（1期生～5期生）の内定先における採用傾向や評価の分析を新たに実施し、就職先ごとのニーズをより具体的に把握し、キャリア支援に活用していく予定である。

2.アンケート回答内容

Q4.新卒採用の際に実際に評価の対象としている資質・能力に該当するものを選択してください。



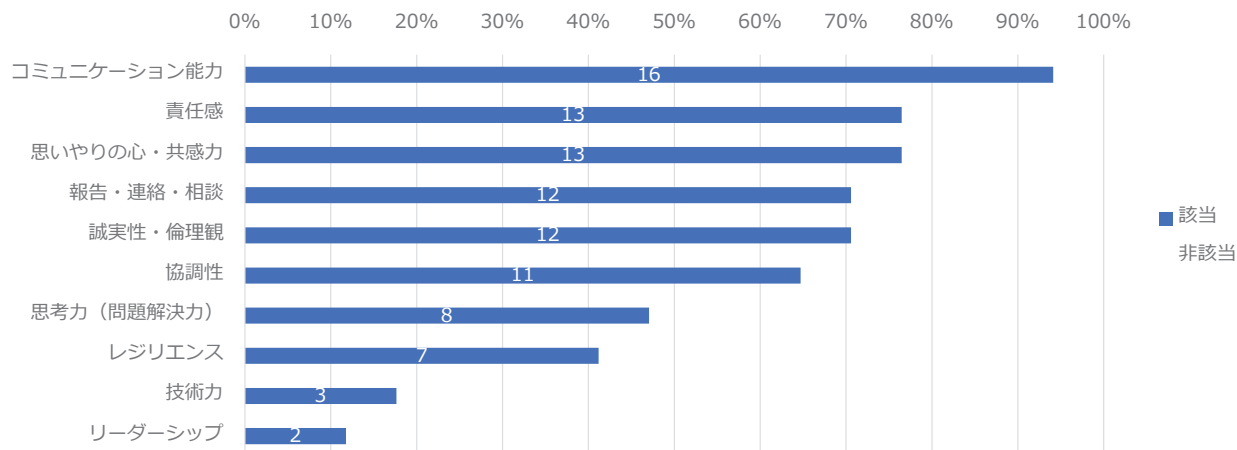
・新卒採用において、病院側が評価対象としている資質・能力は、「コミュニケーション能力」「人柄」「常識力」が最も多く挙げられており、いずれも17件中14件以上の回答を得ている。これは、医療現場において対人関係や人間性が重視されていることを示しており、新人看護師に求められるのは、まず“人としての基本的な力”であることがうかがえる。

・一方で、「専門知識・技術」「文章作成能力」「在学中の成績」「課外活動経験」などは評価対象として挙げられた件数が少なく、学業成績や活動歴よりも、現場での適応力や人間関係構築力が重視されている傾向がある。

・教育機関としては、専門的知識や技術の習得に加えて、人間性やコミュニケーション力を育む教育の充実が今後ますます重要となる。また、就職活動の指導においても、学生が自身の人柄や対人力を適切に伝えられるよう支援することで、採用意向の向上につながると考えられる。

2.アンケート回答内容

Q5. 新人看護師に望む資質・能力について該当するものを選択してください。



・新人看護師に望む資質・能力として最も多く挙げられたのは、「コミュニケーション能力」（16件）であり、9割以上が該当すると答えている。次いで、「責任感」「思いやりの心・共感性」（各13件）、「報告・連絡・相談」「誠実性・倫理観」（各12件）など、人間性や対人関係力が特に重視されていることが明らかとなった。

・「協調性」（11件）や「思考力（問題解決力）」（8件）も一定の評価を得ており、チーム医療や臨機応変な対応力へも重視されている。

・「技術力」（3件）や「リーダーシップ」（2件）は低く、新人段階では専門技術や統率力を求めず、一般企業で求められる資質・能力とは差があった。

・教育機関としては、専門知識や技術の習得に加え、人間性や対人関係力を育む教育が必要である。また、臨床現場での実践を通じて、報告・連絡・相談などの社会人基礎力を身につける機会を積極的に提供していくことが重要である。